

「遊びを通して様々なことを学ぶ」

01 子ども会



子ども会とは、①子どもたちで作っている会、②子どものための会、③子どもたちが計画し、実行する会、④異年齢の中で、成長し個性を伸ばしていく会と定義してはいますが、簡単に述べると「群れ遊び集団」としてとらえることができます。遊びを通して、様々なことを体験的に学ぶ場であると考えています。

大人の働きかけとしては、子どもたちを集めること、活動（遊び）をする場を確保・提供することが中心で構わないと考えます。特別に難しい活動をするのではなく、思い切って子どもたちに任せることが重要です。

そのために、教育委員会ではリーダー研修会等を実施して、子ども会を引っ張っていく子どもの育成にも取り組んでいます。ぜひ、子ども会活動の充実を図っていききたいものです。



「子ども会のお兄さん・お姉さん」

ジュニアリーダークラブ インリーダークラブ

02

本市では、地域子ども会の育成充実を図るとともに、会員自身の資質の向上を図ることを目的とした「志布志市ジュニアリーダークラブ（中学1年生から高校3年生まで）」があります。いわば「子ども会のお兄さん、お姉さん」のような存在で、子ども会活動の支援、ボランティア活動、交流・研修活動を行っています。

また、子ども会内でのリーダーを育成する目的で、「志布志市インリーダークラブ（小学5、6年生）」が平成26年度より発足しました。インリーダークラブは、様々な体験活動を通して、ジュニアリーダーの養成、ジュニアリーダークラブへの加入を促すとともに、各子ども会、地域のリーダーを育てることを目的としています。

1年間に行われる体験活動をご紹介します。

【ジュニアリーダー・インリーダー合同の活動】

5月：ジュニア研修会&インリーダー開講式

7月：ダグリ岬の清掃活動&海浜活動（写真①）、子どもフェスティバル

8月：インリーダー研修【夏】（写真②）

11月：インリーダー研修【秋】

12月：ジュニア研修会【郷土学習・料理と門松】（写真③）

2月：ジュニア研修会【スケート&ハイキング】

青少年を取り巻く環境

私たちが生活する現代社会では、少子高齢化が進行すると同時に、情報化、国際化、消費社会が進行し、家庭、学校、職場、地域などの在りように大きな影響が及んでいます。特に、携帯電話やインターネットなどの情報化社会の急激な進展により、青少年の生活にも様々な問題が発生しています。

また、都市化、少子化、電子メディアの普及、地域とのつながりの希薄化といった社会の変化などで、これまで身近にあった遊びや体験の場、また「本物」を見る機会が少なくなり、そのノウハウも継承されなくなっている現状があります。

不足する直接体験

現在の子供たちは、電子メディア（ゲーム機、携帯電話等）との接触が増え、直接的な体験をする機会が減ってきています。

直接的な体験とは、①生活体験（遊び・手伝い・年中行事）、②自然体験（山や川、海などでの活動）、③社会体験（ボランティア活動、職業体験、異年齢の交流体験）などの主に3つに分けられます。

直接的な体験をすることによる利点は、「体験の力」（自尊感情、共生感、意欲・関心、規範意識、職業意識、人間関係能力、文化的作法・教養）が向上することだといわれています。

豊富な体験活動により、意欲・関心が高まり、学力向上にもつながります。また、体験を通して得られた規範意識や職業意識は、社会に貢献することや勤労意欲の醸成にもつながります。

子どもにとって、読書活動などの間接体験と直接体験を適度に体験させることが健全な成長につながるものと考えます。

志布志市では、体験活動を通じた青少年育成の取組として、子ども会活動と青少年研修事業の2つに力を入れています。

